

市の人口減少に対する取り組みを紹介します（後編）

人口減少は、転出者数が転入者数を上回る社会減と、死亡数が出生数を上回る自然減の2つに分けられます。市人口ビジョンでは、出生数に関する指標として、平成52年の合計特殊出生率（1人の女性が一生に産む子供の平均数）を2.08にすることを目標としました。

今月号では、市まち・ひと・しごと創生総合戦略で取りまとめた人口減少対策のうち、主に自然減に対する取り組みを紹介します。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ～十和田ではぐくもう人間愛を～ **出会いから結婚、妊娠から出産、子育てに至るまで切れ目のない一貫した支援をします**

数値目標（平成26年➡31年）

- ・合計特殊出生率 1.44 ➡ 1.54

具体的な取り組み

- ・出会い・結婚の支援
出会い・結婚に希望と喜びを持てる社会的気運を醸成し支援活動を推進します。
- ・安心して子どもを産み育てられる環境づくり
子どもたちが健やかに育つよう、子育て家庭に対する支援の充実を図ります。

基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する ～十和田で育てよう地域愛を～

健康増進、高齢者の活躍の場づくりに加え、地域の暮らしを支える自治組織の立ち上げや人材の育成などの基盤強化を目指します

数値目標（平成26年➡31年）

- ・介護保険制度の要支援1、2のかたの維持・改善率 88.4% ➡ 92.0%以上

具体的な取り組み

- ・市民一人ひとりの健康づくりの推進
市民がより良い健康習慣を身に付けるための取り組みを促進します。また地域ぐるみで高齢者を支える取り組みを進めます。
- ・コミュニティの活性化
地域の暮らしを支える自治組織の立ち上げや人材の育成などを図ります。



休屋地区・地域おこし協力隊員を紹介します

PROFILE

北海道札幌市出身。25歳。弘前大学教育学部卒業。民間企業を経て着任。在学中に弘前市内6つの大学の学生からなる学生委員会「いしてまい」に所属し、弘前活性化の活動を展開した。

やました こうへい
山下 晃平 さん

2月1日、休屋地区に地域おこし協力隊の山下晃平さんが着任しました。学生時代にまちづくりの活動経験がある山下さんは「観光客の目線で楽しめるところを見つけ出し、体験に結び付けてまちおこしのお手伝いをしたい」と話します。

宇樽部地区に居住し、十和田湖観光交流センター『ぶらっと』を拠点に活動します。

自ら名乗りを上げて十和田のまちづくりに参加する若い隊員を、よろしくお願ひします。